

# 信頼損ねない組

だときは、記事の検証に関する部分は一部に限られ、ほかは慰安婦問題全体のことや識者の見方となっていて、不明瞭と感じた。いま説明してもらったことで、ああそうだったのかと思えたところがある。ただ、朝日の報道があって、それを受けて道内の当時の記者が書いたという経緯があったと思う。その検証がないと。

大島寿美子委員 吉田氏にだまされた、という意識がどこかにあるのではないかと。特集は苦しい紙面作りだと感じた。道新が慰安婦問題をどう伝えたいか、なぜ記事が取り消されなかったのか、なぜ今回このタイミングで紙面になったか、詳細な報告

吉田証言 戦時中、山口県労務報国会下関支部で動員部長を務めたと自称する故吉田清治氏が、韓国の済州島などで従軍慰安婦として朝鮮人女性を強制連行したと戦後、著書や講演で証言した。

北海道新聞は91年、千葉県在住の吉田氏にインタビューし、11月22日朝刊で「朝鮮人従軍慰安婦の強制連行 『まるで奴隷狩りだった』 日本人責任者が痛恨の告白」との見出しで報道。「徴用(連行)には、武装した現地の警察と時には部隊の協力も得た。若くて頑丈そうな女性を選んでは、トラックにほつり込んだ」「抱いていた赤ん坊をひっぺがして徴用したこともある」などの吉田氏の証言を載せた。その後吉田氏がソウルを訪れた際の記事など、同氏関連の記事7本を掲載している。

「吉田証言」については90年代初めまでに疑義が出されていた。朝日新聞は今年8月、虚偽だと判断し関連の記事を取り消している。

後70年へ」の連載記事で道内の戦争体験者にいろいろ聞いていくという。特集掲載にあたっては、慰安婦だった人たちを含め、当時の関係者に直接話を聞くことができればもっと良かった。

と、疑義をあまり重く受け止めてこなかったのだと思う。特集には検証以外の記事が含まれ、狙いが不明瞭だったとの指摘があった。慰安婦問題は戦時に端を発するものであり、日韓間の外交問題になってから

証言を本当のことだと思ってしまうのか。加藤編集局長 吉田氏本人に会って正しいと思って書いた。ただ、歴史に照らして検証すれば、正しいと言いきれない。それで今回、取り消しておわびし

## 財務状況を知りたい 江口氏 脱原発の道筋伝えて 坂口氏

### 北電再値上げ

浜田総経理部長 昨年9月に続く電気料金の再値上げは読者の大きな関心事だった。値上げ時期や上げ幅に関する報道をはじめ、料金認可の仕組みなどの解説や、負担を強いられる家庭や事業所などの意見を積極的に紙面化した。地域のエネルギー政策のあり方についても、シリーズ評論「地域の電力を考える」の識者インタビューなどで、議論のための素材を読者に提供した。

いに関係なく、現代社会で電気を使わない生活は考えられない。家計に影響が出ているし、道内経済にとっても大変なことだと感じている。ただ、値上げが大変なことだからといって、北電の泊原発の再稼働に賛成か反対か二者択一ですぐに決められることではないと思う。

江口委員 (泊原発の停止で)北電の燃料費が年2千億円増えたとしたが、経営努力で吸収できるレベルなのだろうか。経営努力はもちろん必要だが限界があるだろう。北電の財務状況などを紙面に出示してもらえば、わたしたちの参考になる。シリーズ評論は、識者の話と解説がセットで読めてよかった。

大島委員 全国初の再値上げとして注目されたと思うが、前回の値上げ時と似たような紙面展開で、再値上げの異常さがあり伝わってこなかったのが残念だった。北電の財務状況がどうなっているのか、素人にも分かるような分析記事が読みたい。また、原発が稼働しないと道内の電気料金が全国的に高水準になる理由や、電力自由化の現状についても報じてほしい。

坂口委員 この問題の報道は分かりやすさが大事だ。「ニューズ虫めがね」では北電の原発依存体質を分かりやすく伝えていた。酪農や漁業など1次産業でも影響があると伝えた記事も多かった。原発に頼らない社会への道筋を読者に伝える記事があるといいと思う。エネルギーについて読者が積極的に考えられるような記事を書いてほしい。

葉をいただきました。この反省をしっかりと踏まえ、今後、紙面を通じて歴史と真摯に向き合い、報道の責任を果たしてまいります。編集局長 加藤雅規